

新潟市教育委員会 平成29年9月 定例会会議録				
日 時	平成29年9月28日(木) 午後3時30分			
場 所	市役所白山浦庁舎6号棟2階 教育会議室1			
教育長	前 田 秀 子			
出席委員 (8名)	佐 藤 久 栄	出席委員	田 中 賢 一	
	齋 藤 洋一郎		渡 邊 節 子	
	沢 野 千英子		山 倉 茂 美	
	伊 藤 裕美子	欠席委員		
	上 田 晋 三			
会議出席 教育委員会 事務局職員 (20名)	職・氏 名		職・氏 名	
	教 育 次 長	高 居 和 夫	学 校 支 援 課 長	大 井 隆
	教 育 次 長	古 俣 泰 規	生 涯 学 習 セ ン タ ー 所 長	今 井 利 司
	教 育 総 務 課 長	山 本 正 雄	中 央 公 民 館 長	五 十 嵐 政 人
	学 務 課 課 長 補 佐	川 上 潔	中 央 図 書 館 長	三 保 恵 美 子
	施 設 課 長	小 関 洋	中 央 図 書 館 企 画 管 理 課 長	大 井 夫 美 子
	保 健 給 食 課 長	坂 井 玲 子	中 央 図 書 館 サ ー ビ ス 課 長	松 田 玲 子
	地 域 教 育 推 進 課 長	緒 方 猛	教 育 総 務 課 課 長 補 佐	竹 田 由 里 子
	学 校 人 事 課 長	吉 田 隆	教 育 総 務 課 係 長	灰 野 梢
	教 育 職 員 課 長	浅 間 孝 之	教 育 総 務 課 主 査	岡 敬 介
	総 合 教 育 セ ン タ ー 所 長	津 野 治 彦	教 育 総 務 課 主 査	山 口 学
他部署 出席者(0名)				

開会	時 刻	午後3時30分
	宣 言 者	教育長
付議事件 (3件)	議案番号	件 名
	議案第23号	通学区域の一部変更について
	議案第24号	新潟市公民館条例施行規則の一部改正について
	議案第25号	新潟市白根学習館条例施行規則の一部改正について
報告 (1件)	平成29年度全国学力・学習状況調査 新潟市の結果について	

第1 開会宣言

- 教育長 午後3時30分開会を宣言する。
ただいまから9月の教育委員会定例会を開催いたします。
本日、報道関係者より委員会を撮影及び録音したい旨の申し出がありますが、これを許可することに御異議ございませんでしょうか。では許可することで決定します。

第2 会議録署名委員の指名

- 教育長 日程第1会議録署名委員の指名を行います。新潟市教育委員会会議規則第 11 条により、会議録署名委員に渡邊委員及び山倉委員を指名します。

第3 付議事件

- 教育長 次に日程第2, 付議事件に入ります。
はじめに、議案第 23 号通学区域の一部変更について、教育総務課から説明をお願いします。

- 教育総務課長 教育総務課でございます。お願いいたします
議案第 23 号通学区域の一部変更についてご説明させていただきます。
それでは付議の1ページをご覧いただきたいと思います。中央区親松自治会からのご要望によりまして、議案のとおり、平成 30 年4月1日から曾野木小学校、曾野木中学校の通学区域の一部を、鳥屋野小学校、上山中学校の通学区域へ変更することについて、お諮りするものでございます。
曾野木小学校、曾野木中学校から、鳥屋野小学校、上山中学校の通学区域へ変更する町名、番地につきましては、一番下の5番目の通学区域を変更する住所の表、こちらのとおりでございます。

ここで付議の4ページをご覧いただきたいと思います。別紙図面でございます。こちら、図面の中ほどに位置しております親松自治会の右下の部分、黒い実践の校区線が横断しており、親松自治会のうち黄色の部分、こちらの点線で囲まれた部分が、曾野木小学校区、曾野木中学校区、それ以外の部分が鳥屋野小学校区、上山中学校区と、二つの学校区で分断されているという状況でございます。

変更後の通学区域につきましては、先ほど1ページに書かれてある親松 1201 番地から 1207 番地までが鳥屋野小学校区、上山中学校区となるものでございます。

次に、付議2ページにお戻りいただきたいと思います。別紙資料ということで付けさせていただいております。こちら通学区域の変更理由というものでございます。先般、8月の教育委員会定例会の協議会でもご協議いただいておりますけれども、親松自治会は鳥屋野小学校区を主なエリアとする、鳥屋野校区コミュニティ協議会内の自治会でございます。その地域活動の範囲と通学区域との不一致によりまして、円滑な自治活動に不都合が生じているという状況です。

また、住民の皆様は、地域コミュニティの一体化の観点から鳥屋野小学

校区、上山中学校区への通学区域の変更を強く要望しているということでございまして、関係する地域コミュニティ協議会や隣接する自治会の同意の下、通学区域変更の要望の提出となりました。

通学区域変更後の学校の規模でございますが、当該地域は、学区外就学の認可地域といたしまして、対象地域の子ども達につきましては、指定校である曾野木小学校、曾野木中学校ではなく、鳥屋野小学校、上山中学校に通学している実態もございまして、推計を行っている際におきましてもその実態に即して計上しておりまして、推計値についても変わらないという状況でございます。以上で議案第23号の説明を終わりたいと思います。

○教育長

ただいまの説明に、ご質問、ご意見等がございましたら、挙手をお願いいたします。

特にございませぬでしょうか。それでは議案第23号については承認してよろしいでしょうか。ではそのように決定します。

次に議案第24号新潟市公民館条例施行規則の一部改正について及び議案第25号新潟市白根学習条例施行規則の一部改正については、関連がございまして一括して審議したいと思います。

中央公民館から説明をお願いします。

○中央公民館

中央公民館です。よろしくお願ひいたします。

議案第24号新潟市公民館条例施行規則の一部改正と、第25号新潟市白根学習館条例施行規則の一部改正についてでございます。現在、白根地区公民館と白根学習館については、年末年始以外は休館日を設けずに稼働しております。そのために、メンテナンス作業に効率が悪く、また、施設が老朽化しているために、時間がかかりかかるようになっております。そのため、白根地区公民館に毎月1回、第3金曜日を休館日としたいということをお諮りするものでございます。第3金曜日については、利用者数が一番少ないということと、公民館、学習館に並立しております白根図書館が休館日になっているということでございます。以上、ご審議をよろしくお願ひいたします。

○教育長

ただいまの説明にご質問、ご意見等ございましたら、挙手をお願いいたします。

○伊藤委員

利用が少ないということですが、利用している団体等へのご説明等、また、利用の日にちの調整等で十分問題はないということですね。その確認でございます。

○中央公民館

今、白根地区公民館の登録利用団体は約200、利用者数は年間約2万2,000人と、10月30日に定期利用団体説明会を行いますので、その際に、十分なお説明をしていきたいというふうに考えています。

○伊藤委員

ありがとうございました。

○齋藤委員

これは分かれば結構です。改正理由の中で1行目、定期休館日を設

けていないと書いてありますけれども、ほかの公民館などは、どうなっているのですか。年末年始のみのところもあるのですか。

○中央公民館

現在の地区公民館が、25館ございまして、定期休館日のないものが白根と新津の2館でございます。ほかについては、月1回、毎週1回というふうになっておりまして、新津地区公民館については、中にエフエム新津ですとか、また、コミュニティセンター的な利用もあるということで、現在は休館日を設けていないということになっておりまして、特に大きな支障もないということでございます。

○齋藤委員

ありがとうございます。

月1回のところもあれば週1回のところもあるということですか。今のお答えは。

○教育長

ほかにかがででしょうか。ございませんでしょうか。

それでは議案第24号及び議案第25号について、承認するということがよろしいでしょうか。ではそのように決定します。

第4 報告

○教育長

次に、日程第3、報告案件に入ります。はじめに、平成29年度全国学力・学習状況調査新潟市の結果について、学校支援課から願います。

○学校支援課長

学校支援課でございます。よろしく願います。

平成29年度全国学力・学習状況調査新潟市の結果についてご説明いたします。

はじめに、報告1、上段の表をご覧ください。今年度の小学校6年生、中学校3年生の全児童、生徒対象に調査が行われました。調査項目は、昨年同様国語、算数、数学で、基礎・基本の定着を見るA問題と、その活用力を見るB問題の全8項目となっています。右の全国との差からも分かるように、どの項目についても小学校、中学校とも全国平均以上の成績でした。また、今年度より、政令市は各都道府県と別に公表されましたが、その結果、小学校では国語A、国語B、算数Aが20政令市の中で1位の成績となりました。新潟市の授業づくりリーフレットをもとにした取組が成果を生んでいると考えています。現在、各学校も自校の結果を、授業に生かしていくように細かく分析しているところです。

次に、報告2、3は、児童質問紙、報告4、5は生徒質問紙の結果です。数値は4段階の選択項目のうち肯定的な評価の割合を示しています。そして、全国と比較して大変よかった項目を二重丸、よかった項目は丸、課題がある項目で三角で表現しています。ご覧になっていただくと分かるのですけれども、全体的には全国と比較してよい状況であると考えています。

しかし課題もあります。報告2の(15)をご覧ください。小学校では、全国に比べて1時間以上勉強している割合が高いことが分かります。それに比べ、報告4、中学校の15番をご覧ください。小学校の割合より下がり、全国

平均以下になっています。また、その次の(16)休日の学習時間、それから31, 32の予習、復習の学習時間を比べても、中学校は全国平均より低いことが分かり、中学校の家庭学習に課題があることが明らかです。

そこで、最後の資料の取組一覧にもありますように、家庭学習リーフレットを作成し、今年度全学校全教職員に配付し、授業づくりリーフレットと併せて取組を始めたところです。今後も質問紙の結果を細かく分析し、課題を明らかにしつつ、今までの成果をもとにして各取組を推進していきたいと考えております。以上で平成29年度全国学力・学習状況調査の報告を終わります。

○教育長 ただいまの説明にご質問、ご質問等ございましたら、挙手をお願いします。

○齋藤委員 今、課長の言われた、小学生のときは家で勉強する時間が1時間以上あって、中学生になると全国平均よりも新潟市は低いと。これは、今年度に限った傾向ではありませんよね。毎年何か同じようなことを聞いていますけれど、若干、改善はあるのですか。ないのですか。

○学校支援課長 経年で見ているのですけれども、中学校の方はあまり改善がありません。

○齋藤委員 もう1点、そのことに関して、先ほどおっしゃったように今年度からリーフレット改訂版ですか。これは新しい取組として非常にいいことだと思います。認識不足で申し訳ないのですけれども、リーフレットというのは具体的にどういうものなのでしょうか。大まかで結構です。

○学校支援課長 各先生方が持っていて、開くタイプ、A4タイプで開くタイプ、そこに家庭学習をどうすればいいのだということについて書かれていまして、今回特に学校の授業等、関連をした予習や復習をしっかりしましょうということ。それから、今まで家庭学習というのは各授業者とかあるいは担任に任されていたのですけれども、やはり学校全体で、どの先生が持っても同じような家庭学習の出し方になるように、学校全体組織で見てくださいということが、説明されているもので、それを取り組むようにということで今年度出したものです。

○齋藤委員 なるほど。各個人の先生という認識よりも、学校全体で取り組んでいこうという姿勢の表れと見てよろしいのですか。

確か、北陸の県で非常に家庭学習の時間が長いという報告を聞いたことがあるのですけれど、その辺のところも参考にされるような形だったのでしょうか。

○学校支援課長 そうです。北陸もそうですし、それから秋田もそうなのですけれども、大変学校の授業に関連のある復習をしているという印象が強いです。それから予習をしっかりしているというのが福井県や石川県です。やはり政令市上位県は2時間以上とか3時間以上している子どもたちの割合が非常に多いという傾向があつて、それらを参考に、新潟市も変えていかなければいけないだろうと考えています。

- 齋藤委員 これも確認ですけれど、これは塾の時間を含んでいないのでしたよね、確かね。
- 学校支援課長 含んでいます。
- 齋藤委員 ごめんなさい、塾の時間も含んでいるのでしたね。
- 伊藤委員 今のことに関連してです。家庭学習の大切さということで、中学校がやはり課題だということなのですからけれども、今年度の4月かの第1報の地域の小学校からのおうちへのお便りに、家庭学習の大切さということで、非常に丁寧なたよりが出ていました。中学校においてもそんなふうに家庭への周知及び子どもさんへのご指導をされていると思いますが、その辺、特にどうか学校で工夫しているということがあるかどうか確認をしたいというものです。
- もう1点は、先生たちの多忙化というので、家庭学習ノートのAノート、Bノートを作ると、先生がAノートを見ている間は、子ども達がBノートで家庭学習とするとか、そういう工夫もあるというアイデアを聞いたことがありますが、その辺、今、量と時間の長さということをおっしゃいましたけれども、どういふふうに家庭学習をしたらよいかというご指導、これだけ課題ということが続いているので、特に中学校、やらされている学習というよりも、自己有用感とともに学ぶ意欲ということで、自分で学ぶ学び方を学び、そしてどんどん学ぶ喜びということで、結果的に数字が上がるのではないかという意識ですが、その辺、ご指導の方、どうなのか教えてください。
- 学校支援課長 中学校も小学校も課題だと思っていまして、小学校の方も時間はやっているのですけれども、今までドリルをやりなさいという形で、学校の勉強とあまり関係のないものをやるというのでだいぶ時間を使っていたので、そうではなくて、学校の授業に関連のある宿題にしましょうということで、小学校は改善をしていますし、それが自主的にやることにつながるのではないかとことです。中学校の方も、課題だということを十分承知して、一番よいのは、きちんと家庭学習を評価することがもちろん効果的なのですけれども、先ほど言ったように多忙化と関連して、先生方がそれをやるとなるとまたものすごいエネルギーを使うものですから、評価することを意識はするのですけれども、やれる範囲で取り組みましょうということで取り組んでいます。ただ、中学校では幾つかの学校がやっているのですけれども、授業の終末、学校から帰る前、あるいは部活が始まる前に15分くらい時間を取り、家に帰って何を勉強するかを決めるという取り組みを行っています。要するに学校にいる間に今日やった勉強を振り返り家に帰ったら何を勉強するかを決めて、やることを家庭学習ノートに書いて、時間が余っていたらその時間に始めるという取り組みです。15分たったら終わりなのですからけれども、その間先生が見て回ったり、評価してあげたりすることで、家に帰ってから何をやるかがすぐ分かっていますから、家に帰ってそれをやるのだったということで、続けられるというような形のきっかけを、

学校で作るとい活動を入りたいということで、いろいろ工夫はしていますので、今後それらの工夫を紹介しながら、家庭学習の方も変えていきたいと考えています。

○伊藤委員

あと、小学校だと報告2の(9)とか、友達の考えを受け止めて、自分の考えを持つことができますか、ほかの自己有用感とか、学校で非常に一生懸命取り組んでいるというのが数字に出ているなということ、非常に見て理解ができました。友達と自分の意見を出し合い、また人の意見を尊重するということはすごく大事なことなので、かかわり合う学習じゃないけれど、学習においても非常にこれが数字に効果が出てくるといいなというふうに私かいろいろいい数字が出ているのではないかと、自分なりに星印をつけてこの評価見させていただきました。ありがとうございます。

○田中委員

別な側面をお願いします。

小中ともに44, 45, 48のところなのです。まず44番、地域の大人に勉強やスポーツを教えてもらったり、一緒に遊んだりすることがありますか。遊ぶということに関しては、中学生は難しいかなと思うけれども、新潟市は地域教育コーディネーターが中心となって、いろいろ地域の人が相当数学校に入っているけれども、このところが全国よりも新潟市が低く、さらに新潟県よりも低いのです。その辺が、もしかするともっと違うようなとらえかたを子ども達がしているのかなと思ってみたり、何か、もっと数値が上がっているのではないかと思うのですけれども、その辺についてお考えを聞かせていただきたいということと、45番では、新聞を読んでいますか、週に1回以上の割合でこうなっているわけです。全国や県よりも数値はいいのだけれども、決して高いわけではない。ここももう少し数値が上がってもいいのではないかという気がするけれども、やや低いと。

そして48番、将来外国へ留学したり、国際的な仕事に就いたりしてみたいと思いますか。新潟市が心豊かに海外に羽ばたく子どもを目指しているわけですので、そういう意味では今後さらに国際化ということが進められていくわけですが、小学校も全国よりは若干低く、中学校で三角がついているという状況なのですけれども、これについて課長のお考えを聞かせていただければと思います。

○学校支援課長

私たちもこの設問の設定については不思議だなと思っています。あれだけコーディネーターが入って、あれだけ人が地域から入っているのに、なぜこの数値が低いのだろうということです。子どものとらえが私と違うのかなという、学校の授業にかかわってもらっているということではない、それ以外のことを考えて行っているように思っていて、その辺、もう少し分析しないと分からないと思っている項目です。実際は、どの政令市に比べても地域の方々がたくさん入って、さまざまな活動を支えてくださっているのは明らかなので、子ども達がどういう感覚でしているのかと、もう少し探らないと分からないというのが現状です。

それから新聞についてもNIEに取り組んでいるのですが、NIEも全校で

取り組んでいるのですけれども、やはり指定校中心でやっているという感じもあって、全市的に新聞を読むことが、ちょっと足りないのかなというところもあるので、若干いいというところかなと思っています。

最後の、外国の留学とか、そういうものだけではないのですけれども、キャリア教育的な部分で、将来自分が何になるのかという、仕事のさまざまな紹介がされているかという、小学校の段階も中学校の段階も、あまりそういう場が潤沢ではないかなという気がしていますので、その辺が結果に出ているかなと思いますので、今後はキャリア教育というか、そういうものがあるよということはいっしょに伝えていかなければいけないと思います。

○田中委員

最近つくづく思うのは、単なる知識の教え込みでは、全くこれからの子ども達は意味がなくなっていくのだらうと思うのです。そうすると、やはり一人ひとりの子どもが自分のものとして、自分の問題としてとらえながら解決していく。そういうことは実は新聞を読み解きながら、新聞と例えば現実問題をどう対比させていくかとか、それに大きな収穫、やり方によりけりですけれどもあるのではないかと思いますので、図書館活用も含めて、ぜひ今後新潟市でも積極的に進めていただければと思っています。

○伊藤委員

先ほどの 44 番に関連してですが、私個人の解釈としては、地域で大人と一緒にやってもらったりすることがありますかというふうに聞いているのかと思いました。学校で地域の人 coming ののがカウントされていないのではないかなと、いいふうに解釈したので、数字が低いというよりは設問のとらえ方で、子ども達は地域で大人と一緒にスポーツしたり遊んだりしているかどうかというふうに判断して、バツを書いたということも考えられるのではないかと、読み解きました。学校の中で、地域の人がいるときに、その人が地域のひとかどうか、小さい学年の人などは分からないと思うので、その辺が、逆に新潟独自のいいところかもしれないので、解釈によってはばーんと数字がめちゃめちゃいいのかもしれないと感じました。いいふうに考えています。

○齋藤委員

これは全国一律の、このとおりの質問になるのですか。

○学校支援課長

はい。そうです。

○沢野委員

今の話で、伊藤委員と全く私も同じことを思ったのです。学校の中とかではなく、本当に地域の中でどうふれ合って、そういう場面というのが少ないと正直思って書いたのではないかと、私も思いました。

○渡邊委員

地域の人が学校に来てくれますからね。

○沢野委員

そう思いました。

感想になるのですが、報告4ページの 27, 28でしょうか。家の人と将来のことについて話すことがありますかという数字がちょっと少なくて、三角だったりとか、行事に、この辺がちょっと寂しいかなと。家の人と会話ってどうなのかなということ、懸念するところもあったりしたのです。

○齋藤委員

これも、年1回あったのかとか。これまであったのか、難しいよね、マル・

バツつけるのはね。

○沢野委員

うれしいなと思ったのは6番ですね。自分にはよいところがありますか、というのが、いい数字でよかったなと。

○山倉委員

小学校、中学校の40番なのですが、今住んでいる地域の行事に参加していますか。小学生が73.8で中学になると44パーセントになるのです。私も地域で活動しているときに、本当にそれをとても感じていて、なかなか中学校の参加が少ない。先生方によると、やはりその日は部活があつてねということで、仕方がないのかなと思いつつも、地元の行事とかはできたら先生がたも、部活よりもそちらのほうを優先にというようなことをしていただければ、うれしいねという話をしているのです。地域の行事というのもとても大切ですし、試合とかであれば仕方がないのかもしれませんが、練習とかの場合、地域行事があるのであれば、そちらを優先にというふうにしてもらえるとうれしいなと、いつも感じているのですがなかなか、先生がたに言うと、何か月も前から言ってくれればいんだけどねという感じなのです。仕方がないのかもしれないけれど、地域の行事も大切なので、できるだけ中学生も参加できるような、参加しやすいような環境を学校側が作ってくださるとうれしいなと思っております。

○伊藤委員

報告2の19番を見ますと、昼休みや放課後、学校が休みの日に本を読んだりというのが二重丸でした。一生懸命読書活動の推進をしているところですので、ものすごく数字に表れているというところで、ここはとてもいいなと、学校の図書館司書の方も頑張っていますし、学校図書館支援センターも機能しているのではないかと感じました。

○渡邊委員

先ほど出た復習のことですが、この調査は学年ごとでも詳しい数値などが出ているのでしょうか。小学校のときは59.2で、中学校になると32番の復習が44で、がくと下がるのですけれども、習慣になっていたことが中学校に入った途端に変わるのか。学年を追うにつれて変わるのか。そのあたりが分かると、指導の方針が見えてくるのかなと思いましたが、いかがでしょうか。

○学校支援課長

センターのほうで11月に子どもたちのアンケート調査を行っていただいているのですけれども、そこに幾つかこれと重なっているものがあります。

大事なところは、この項目と合わせて、私たちが大切と思っているところについては、合わせてとっていただいています。それは小学校1年生から中学校3年生まで、全部の学年をとっているのです、そのデータは見るとだいたいどんな状況かは分かると思います。ただ、全国全校学力のほうは、4月当初でやって、11月にやるので、11月だと高校入試ちょっと前になってきているので、当然、上がってくるわけですがけれども、それで上がったとっていいかどうかと、何とも言えないところです。

○田中委員

このことについて、例えば支援課さんで、どこかで校長会等で触れた機

会がありますか。例えばこの質問紙の内容について

○学校支援課

校長会では、今、全国学力の結果と質問紙を連動してお話をしていて、今回家庭学習だということにきましたので、家庭学習と日々の授業について、こういうスタイルでやってほしいという、この2点については、校長会の方に、小も中も話をさせていただきました。今日も中学校は各代表校長先生が来て、家庭学習をどうするかということと、授業スタイルをどう変えるかというのは打ち合わせをしているところです。

○田中委員

例えばその中で、ぜひお話、加味できるものであれば入れていただきたいのですが、例えば小も中も非常によく頑張っているのが幾つもありますよね。例えば全国的に自己肯定感が低いといわれる中でも、自分にはいいところがあると思うかというところの数値が高かったりとか、あるいは36番のように、話し合いの場で異なる意見やそういう考えを生かしたりしながら折り合いをつけてやっていく。これから人間が生きていくうえで非常に大事な部分、そういうところについて、やはり普段から学校現場の先生がたのおかげで新潟市の子ども達は、こんなふうがいい面が伸びてきていますよという、プラスの部分もぜひ伝えながら、学校現場から元気が出るようなご指導をいただければありがたいと思います。

○学校支援課長

そのとおりだと思いますね。

○教育長

ほかにございますでしょうか。

よろしいですか。それでは、報告については以上となります。では続きまして、次回の日程について、教育総務課からお願いします。

第5 次回日程

○教育総務課長

次回の日程でございます。10月につきましては10月27日金曜日午後3時半から、11月につきましては、11月30日木曜日午後3時半から定例会を予定しております。

第6 閉会

○教育長

それでは、以上で定例会は閉会とします。お疲れ様でした。

以上、会議のてん末を承認し、署名する。

署名委員

署名委員